

第27回ITER理事会の 結果について

文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官（核融合・原子力国際協力担当） 付

日程： 令和2年11月18日（水）・19日（木）

※新型コロナウイルスの感染拡大のため、前回に引き続きテレビ会議により開催。

議長： ルオ 中国科学技術部核融合エネルギー計画執行センター長

出席者：

（日本）松尾 文部科学審議官、鎌田 QST那珂研副所長（文部科学省参与）ほか

（欧州）ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長 ほか

（米国）ビンクリー エネルギー省科学局次長 ほか

（ロシア）ボロフコフ 連邦政府官房副補佐官 ほか

（中国）ホワン 科学技術部副部長 ほか

（韓国）イ 科学技術情報通信部宇宙・原子力・巨大科学政策局長 ほか

（インド）グローバー 原子力委員会委員 ほか

（ITER機構）ビゴ機構長、多田副機構長 ほか

議題：

（1）開会挨拶（議長、各極首席政府代表、機構長）

（2）ITER計画進捗報告

（3）ITER建設活動のマネジメント

（4）その他



（令和2年11月時点・ITERサイト）

1. ITER計画の進捗

- 運転開始（ファーストプラズマ）までの建設作業は約71%進捗。
- コロナ禍においても、**主要機器がITERサイトに納入**されるなど、**組立作業が進展**。

- **日本・欧州の超伝導トロイダル磁場(TF)コイル4機が順次サイトに到着。**

日本のTFコイルの到着状況：1号機（**世界初号機**）2020年4月25日到着
2号機 同年7月3日到着

- 韓国の真空容器が8月にサイトに到着。



（運搬中の日本のTFコイル2号機）

- 他方、新型コロナウイルスの感染拡大がプロジェクトの進捗に影響。
 - 新型コロナウイルスによる影響を全体的に評価できるまで、現行のスケジュール（※）を維持。
- ※ 2025年 運転開始（ファーストプラズマ）、2035年 核融合運転開始
- 影響を最小化する対策を講じるとともに、次回理事会（2021年6月）において新型コロナウイルスによる影響を更に評価。

2. TBM試験計画への参加極の決定

- **TBM（テストブランケットモジュール）** は核融合炉からエネルギーとして熱を取り出すための機器。

- TBMは核融合発電を実現する上で重要な機器であり、計画に参加する各極は**独自のTBMを設計**。
- 最も優れた性能のブランケットが、**核融合発電の実用段階（今世紀中葉）での世界標準**となる可能性が高い。

- ITERの設計上、TBM試験を実施できるのは4個の機器に限定。
⇒ **日本の提案するTBMの参加が決定**。 ※他の参加極はE U・中・韓

